

D 23 短期大学における住環境教育の充実に関する研究 (第1報)

短期大学の現状と学生の意識

聖徳学園女子短大 ○新田米子

江角女子短大 高橋啓子 三島由美 飯島直美 長沢由香子  
市郎学園短大 松葉美子

目的 短期大学家政系における住環境教育の現状は、小・中・高等学校の場合と同様にいまだに家政のみに止まり他分野に比べ教育内容の充実化が遅れているといえる。本研究は、短期大学における住環境教育の教育内容・スタッフ面での充実化をはかるために検討を試みるものである。今回は、東海地区における短期大学の現状を検討する一方、現在の短大生の意識を探る目的のアンケート調査を実施した。本報では、その結果から学生の住みに対する関心などを主に報告する。

方法 短大生を対象としたアンケート調査は、1982年5月下旬から6月上旬にかけて、愛知県、岐阜県にある私立短大6校を対象として行った。調査票の回収数は、721であった。

結果 短大家政系の学科・コースの現状をみると、住環境に関する開講科目は、「住居学」2単位の計という短大が圧倒的に多く、その他「住居学演習」、「家庭工作」がつけ加えて開講している所が若干ありにすぎない。したがって、「住居学」を担当する教員も非常勤という短大が大半である。東海地区の短大において「住居学」の専任教員のいる短大は約3割にすぎない。このような現状をふまえて、住環境教育の本来のあり方を問う一つの手段として、学生の意識の実態把握を試みた。学生の「住みに対する関心の程度は、「非常に関心がある」が2割弱、「少し関心がある」が約6割と8割弱の学生が住みに対してなんらかの関心を持っていることがわかった。このことは、短大別、学年別、専攻・コース別、居住地別がそれぞれ大差なく類似した傾向がみられた。